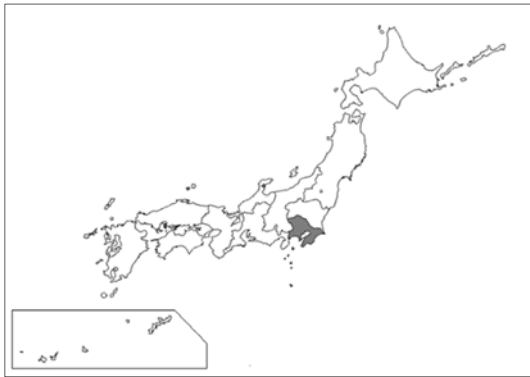


(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

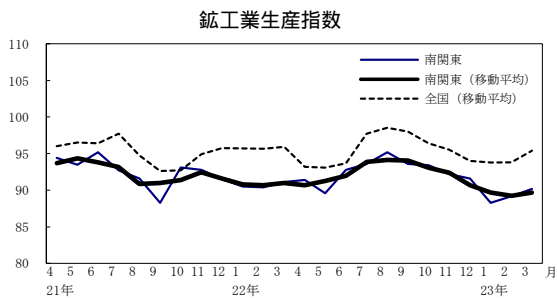
前回からの主要変更点

	前回 (令和5年3月)	今回 (令和5年5月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、 <u>緩やかに持ち直している</u>	<u>緩やかに回復している</u>	
鉱工業生産	持ち直しの動きに足踏みがみられる	持ち直しの動きがみられる	
個人消費	<u>緩やかに持ち直している</u>	持ち直している	

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

1-3月期の鉱工業生産は、前期比3.4%減となった。月別にみると、1月は「輸送機械」が減少したこと等により前月比3.6%減、2月は「汎・生産・業務用機械」が増加したこと等により同1.0%増、3月は「輸送機械」が増加したこと等により同1.1%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。南関東の最新月は速報値。
 2. 全国及び南関東の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
 3. 南関東は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1-3 月期	1月	2月	3月
石油・石炭、化学、プラスチック	22.2	▲1.7	▲1.7	1.7	▲1.2	▲0.9
輸送機械	14.1	4.1	▲8.1	▲8.9	▲1.6	7.7
汎・生産・業務用機械	13.7	▲6.5	▲3.6	▲5.8	4.8	2.6
電子デバイス、電気・情報通信	12.6	▲2.1	▲3.7	▲3.7	0.0	▲0.2
食品・たばこ	12.4	▲0.4	—	▲5.4	1.6	—
鉱工業	100.0	▲1.8	▲3.4	▲3.6	1.0	1.1

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 1-3月期、3月は速報値。速報値において化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類。

2. 個人消費の動向

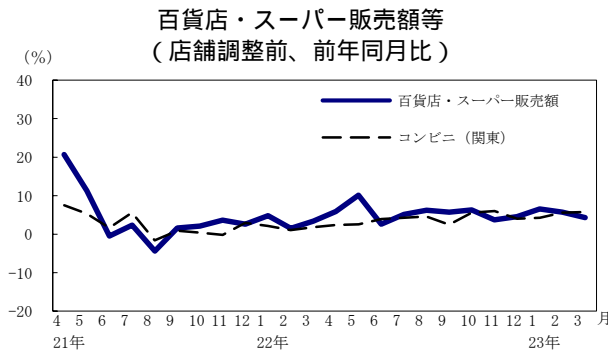
個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1-3月期は前期比0.6%増となった。月別にみると、1月は前月比0.5%増、2月は同0.8%増、3月は同0.9%減となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1-3月期は前年同期比5.5%増となった。月別にみると、1月は前年同月比6.5%増、2月は同5.7%増、3月は同4.3%増となった。



	2023年1-3月	2023年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.6	0.5	0.8	▲0.9
百貨店・スーパー(*2)	5.5	6.5	5.7	4.3
コンビニ(*3)	5.2	4.2	5.6	5.7
乗用車(*4)	12.6	13.9	18.4	7.7
(季節調整値)(*4)	7.0	13.4	1.7	▲5.7

(備考) 1. 季節調整前(月)比 (%)

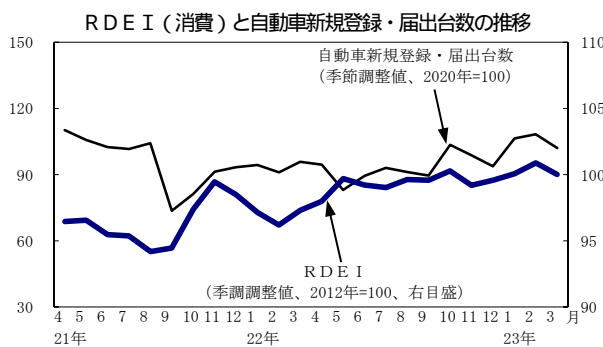
2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

コンビニは、経済産業省の関東(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野、静岡)の値。

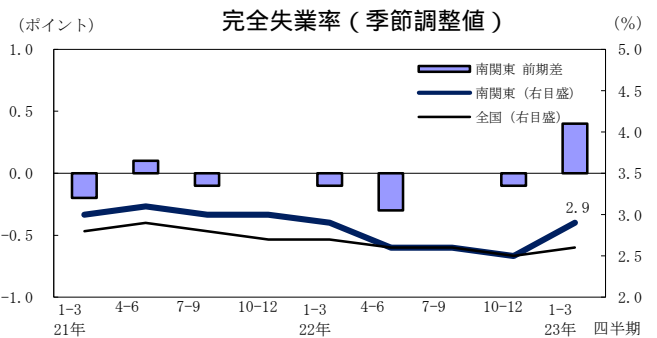
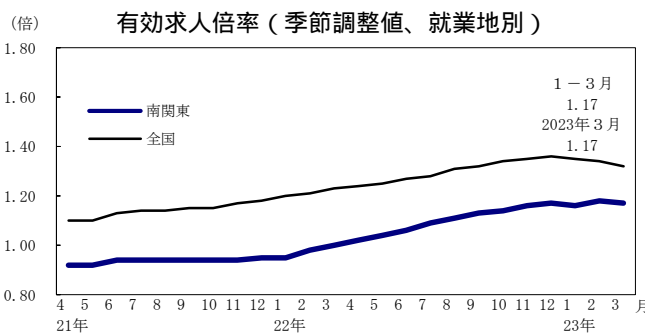
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は持ち直している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査（令和5年4月調査）景気判断理由の概要

4. 南関東

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

		分野	判断	判断の理由
現状	家計 動向 関連	□	・出掛ける人は増えているものの、毎月の値上がりもあり、来客数は伸びていない。まだまだこの状況は続く（家電量販店）。	
		○	・5月8日の新型コロナウイルス感染症の5類への分類変更に向けて、客足は徐々に回復している。宴会も戻り始めている状況で、全体的には回復傾向にある（都市型ホテル）。	
		▲	・物価の高騰による生活防衛のため、より安価なサービスを求めて契約の見直しを検討する客が以前よりも増えてきている（通信会社）。	
	企業 動向 関連	□	・当社の景気の悪い原因の1つは電気代の値上げである。電気を使う商材が売れなくなっている（電気機械器具製造業）。	
		○	・自動車メーカーにおける部品調達不足も徐々に解消し、増産体制が整ってきている（輸送用機械器具製造業）。	
▲		・3か月前に比べて受注が約10%減少している。取引先の販売量が減り、在庫過多の様相である（精密機械器具製造業）。		
雇用 関連	□	・製造業からのエンジニア派遣ニーズは変わらず多く、景況の良さがうかがえる（人材派遣会社）。		
	○	・企業の求人、採用者数が少し良くなっている。外国人採用者数も増えている（民間職業紹介機関）。		
その他の特徴 コメント		◎：4月に入り、急激にインバウンド客が増えている。新年度に伴うギフト、イベント需要も企業、学校関係で増えている（百貨店）。 ○：3か月前と比べると、気温の上昇で、ソフトドリンクとその他の冷たい商材の販売が多少好調である（コンビニ）。		
先行き	家計 動向 関連	□	・前年よりは持ち直しているものの、価格高騰による出費抑制は引き続きみられると予想されるため、現状とさほど変わらない（高級レストラン）。	
		○	・コロナ禍における行動制限が解除され、今年は各地域の花火大会の開催などの行事により、着物事業においては浴衣需要が見込まれる。また、インバウンド需要も見込める（衣料品専門店）。	
	企業 動向 関連	□	・人件費、電気代、仕入価格の高騰により採算が取れないという話を聞いているので、テナントの撤退が心配である（不動産業）。	
		○ ▲	・国内の受注は横ばいであるが、海外向けの受注が増加している（化学工業）。 ・物価高騰に歯止めが掛からない状況が継続する（建設業）。	
	雇用 関連	□	・業種により差は出てきそうだが、全体としては人材不足の状況が続くようである（人材派遣会社）。	
その他の特徴 コメント		◎：新型コロナウイルス感染症の5類への分類変更により、企業の従業員に対する行動制限がなくなることが想定され、法人での会食や団体旅行の復活が予想される。また、インバウンドは順調に回復しているが、2～3か月前には中国本土からの訪日客が一気に増え、インバウンド需要の高まりが期待できる（その他レジャー施設 [総合]）。 ○：海外旅行は、新型コロナウイルス感染症の分類が5類に移行するため、夏場の予約に期待している（旅行代理店）。		

(D I) 現状・先行き判断D I（南関東）の推移（季節調整値）

